

EPS

期待の成形断熱材

天候影響で厳しい野菜箱

EPS成形品は、水産出荷にも影響が出てい用途の魚箱と農業用途の。また、果実、野菜等野菜箱・果実箱のいわゆる農業箱用途は、大型の箱物でEPS全体の半分を占める主力製品となっているが近年は魚箱の右され出荷は厳しいものが続いた。

低迷が際立ってきている。一方、省エネに対応する。東日本大震災における断熱材分野は、発泡スチロールのなかでもEPSの東北の漁港復興が遅れSが任意の形状に成形できるのはまた時間がかかりきる最大の特徴を活かすので、EPS製魚箱のし、屋根瓦下地断熱材、

床暖房の断熱、パイプカバー等々の成形品をはじめ断熱建材としてのボード製品など近年は省エネ対応として出荷数量も伸びを示してきており、軟弱地盤はじめ道路建設時の盛土工法の工事にも貢献しており全国での出荷量を伸ばしてきている。

緩衝材用途としての家電・弱電分野は、家電・弱電メーカーの海外進出から空洞化が進み、内需における緩衝材向け用途は段ボールへの切り替えなどがあって減少の状況が続いていたが、昨年は作業性のコストが高い段ボールの見直しからEPS緩衝材への戻りがあった模様で低迷していた用途だが期待感が持たれている。

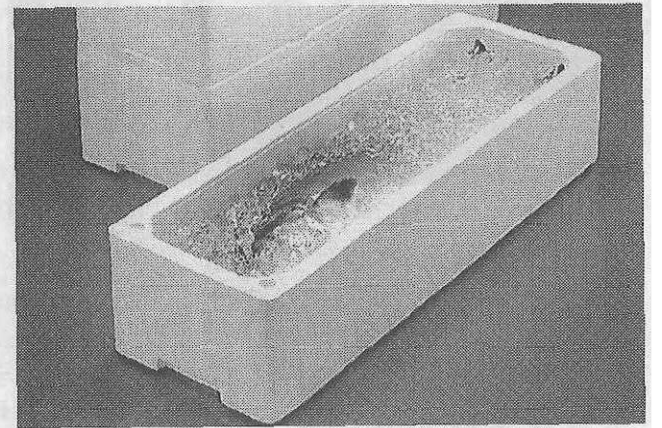
JEPSSAでのPR活動も奏功

EPS業界は、成形加工業界の日本フォームスチレン工業組合と原料メーカーとが「発泡スチロール協会/JEPSSA」で循環型社会形成として

がホスト役を務め千葉県成田市のヒルトン成田で盛況に開催され成功裡に式典を終え、日本のEPSリサイクル事業への取り組みが広く海外へ認知された。

PR活動では、しろくまキャンペーンを全国の動物園で展開し全国のJEPSSA会員が協力してEPSの持つ断熱性や緩衝性などを一般消費者へ広くアピール。今年も秋のEPSリサイクル率は7月過去最高の88・3%(昨年のリサイクル率は7月2日に公表を記録した。また、発泡スチロールの見直しからEPS緩衝材への戻りがあった模様で低迷していた用途だが期待感が持たれている。

(関連記事1面参照)



EPSの魚輸送容器